

EHS&S研究センター セミナー2014

安心・安全な社会の実現を目指して

開催日時 10月2日(木) 13:30~16:30 受付開始: 13:00~

入場無料(事前登録制) 参加には事前登録が必要です。詳しくは裏面をご覧ください。

会場: UDXカンファレンスA+B(秋葉原UDX 6F)

主催: 株式会社NTTファシリティーズ総合研究所

後援: 株式会社NTTファシリティーズ

お申し込み

● 入場無料(事前登録制)

事前登録は、ホームページより受け付けております。お席には限りがございますので、お早めにお申し込みください。

<http://www.ntt-fsoken.co.jp/>

ファシリティーズ総研

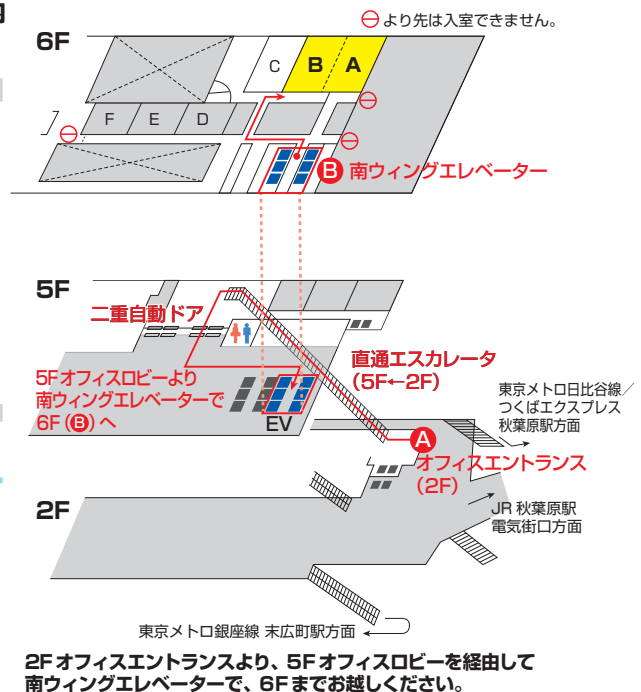
お問い合わせ先

EHS&S研究センター セミナー事務局
(NTTファシリティーズ総合研究所内)
TEL: 03-5806-2118
(受付時間 10:00 ~ 16:00)
E-mail: info@ntt-fsoken.co.jp

会場(秋葉原UDX 6F)へのご案内



- 東京メトロ銀座線 末広町駅 1番出口より 徒歩3分
- JR秋葉原駅 電気街口より 徒歩2分
- つくばエクスプレス秋葉原駅 A1出口より 徒歩3分
- 東京メトロ日比谷線秋葉原駅 2番出口より 徒歩4分



拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より弊社に多大なご理解とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

株式会社NTTファシリティーズ総合研究所は、シンクタンク機能をもつEHS&S研究センターを組織し、ファシリティに関わるリスクマネジメントに主眼を置いたR&C(リサーチ&コンサルティング)に取り組んでいます。

本年も、R&Cを通して得られた知見を広く社会に情報発信するため「EHS&S研究センター セミナー 2014」を開催いたします。

ファシリティを取り巻く課題は、巨大化・多様化・複雑化の一途をたどり、経営戦略に直結する影響を及ぼしてきています。社会の持続的発展を視野に入れた、環境(E)・保全(H)・安全(S)・セキュリティ(S)に関わる総合的なリスクマネジメントが今こそ求められています。

この度のセミナーでは「安心・安全な社会の実現を目指して」を主テーマとして、「減災」という言葉を提起し、文理融合型の防災・減災を主張されている、関西大学社会安全研究センター長・教授(京都大学名誉教授)の河田恵昭氏をお招きし「巨大地震に対する東京の防災・危機管理」の基調講演をいただきます。あわせて弊社からは「災害リスクとスマートコミュニティ・プロジェクト」「ゼロエネルギービルと災害対策」をテーマにご紹介いたします。

ご多忙中のこととは存じますが、ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

なお、参加料は無料ですが、事前登録制となっております。お手数をお掛けいたしますが、本状のお申し込み要領をご確認のうえ、お手続きのほどお願い申し上げます。

13:00 ● 受付開始

13:30 ● 主催者ご挨拶

13:40 ●



河田 恵昭 氏

関西大学社会安全研究センター長・教授（京都大学名誉教授）
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長

1974年京都大学工学研究科博士課程修了。工学博士。京都大学教授、巨大災害研究センター長、防災研所長を経て現職。現在、東日本大震災復興構想会議委員、中央防災会議防災対策推進検討会議、防災対策実行会議委員など。2007年国連SASAKAWA防災賞（本邦初受賞）、2009年防災功労者内閣総理大臣表彰など受賞。論文：約700編、著書：『津波災害』（岩波新書）、『(絵本) にげましよう』（共同通信）など多数。

巨大地震に対する 東京の防災・危機管理

もし、首都直下地震のようなリスクが、欧米先進国の首都にあるとすれば、きっと最優先に対策を進めているはずだ。なぜなら、彼らは、リスクを前提にして国づくりをやるからである。東京首都圏は、世界で唯一、「ひと、もの、情報、資源」が集中し続け、今も肥大化している。そして、それを規制するどころか、国・自治体も経済界もそれを是とする風潮は、どこか狂っている。起これば、間違いなく首都は壊滅し、わが国も疲弊する。人口減少や少子高齢化は緩慢に進むが、巨大地震は突然起こって、国を滅ぼしてしまう。首都圏の危機管理は、いま地震が起これば壊滅するという切迫感を直視することから始めなければならない。古典的な被害ではなく、必ず未知の被害が圧倒する。高度複雑社会ではそれへの備えが不可能と考え、強制的な首都圏多極分散を経て地方分散に至る政策の展開しか、残された道はない。

15:00 ● 休憩

15:10 ●

災害リスクと スマートコミュニティ・プロジェクト

東日本大震災以降の電力の逼迫に伴うピーク電力の抑制や、気象条件に左右される再生可能エネルギーの導入促進、災害時の電源確保、地球温暖化対策等のためのマイクログリッドの実証事業が、スマートコミュニティ・プロジェクトとして加速されている。ここでは、スマートコミュニティに期待される機能・効果と実証事業の事例、今後の展望について紹介する。



大津 智

工学博士
EHS&S研究センター
上級研究員

15:50 ●

ゼロエネルギービルと 災害対策

エネルギー需給が国際的に不安定さを増し、国内では電力料金が上昇する中、施設でのエネルギー使用量を実質ゼロにしようというネットゼロエネルギービル（nZEB）への取組みが各国で始まっている。一方で災害に対してレジリエントな施設が求められている。ここでは、nZEBに向けた規制動向、海外の事例、考慮すべき災害対策等について紹介する。



大島 一夫

工学博士
EHS&S研究センター
センター長